

第2回広島都市圏バス活性化推進会議の開催概要について

1 日時

平成26年3月18日（火） 10:00～12:10

2 場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

3 出席者

委員17名中14名出席

4 主な会議内容

バス交通の課題分析及び検討項目について

バス活性化方策の具体的な検討にあたっての基本的な考え方の整理
(説明資料は、別冊のとおり)

5 委員からの主な意見

(1) バス交通の課題分析及び検討項目に関する意見

ア バス交通には課題があるだけでなく頑張っているところもあるので、課題を解決するための施策と、その特徴を更に伸ばすための施策に分けて整理することもできる。

イ 分析が十分に足りているとは言えず、課題をさらに分析・抽出したうえで対応策を検討するなど、論理構成をしっかりとやる必要がある。

ウ 分析にあたっては、乗継利用者の最終目的地としてどういう施設があり、どういう目的で利用しているのかなど、利用実態をクローズアップして調べると良い。

エ 今後、バス交通は、路面電車やアストラムライン、可部線などと競争していくのか、役割分担していくのか、枠組みの議論をしたうえで、その枠組みと活性化策の検討項目の整合性を図る必要がある。

オ 都市圏における交通体系のあり方を考えるうえでは、公共交通の軸として鉄道や路面電車、バスそれぞれの軸があり、これらの間で調整を図る必要がある。そのためにも、バスの軸がどこなのかをしっかりと考える必要がある。

(2) バス活性化方策の具体的な検討にあたっての基本的な考え方に関する意見

ア 都心やデルタ、郊外などについて、それぞれで最適化するのではなく、4つの階層の関係をしっかりと整理し、階層間の連携に焦点を当てていく必要がある。

イ まちづくりとの連携だけでなく、高齢者や観光客など、ある程度対象者を意識することで見えてくるものもあるのではないかと。

ウ 団地などでは、都心までの所要時間よりも、バス停までのアクセスなどをどうするのかといった議論の方が大きな問題である。

エ 現状の乗継割引では、原資を業者が負担しているところが多く、乗継割引を拡大する場合は、事業者にとって一定の覚悟が必要である。

オ 広島のバスで最も大きな問題は、複数いる事業者間をどうするかということであり、事業者側の事情や運輸局のアドバイスをもとに、今後どうしていくのか議論していく必要がある。

カ バス事業者としても、業界を上げてバスの活性化に取り組もうとしており、採算性、収益性を担保しつつ、どういったネットワークを形成できるのかについて検討を進めている。

以上